

2023 年度通常（第 3 回）理事会議事録

1. 日 時：2023 年 12 月 2 日（土） 11：00 ～ 16：00

2. 場 所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3 階会議室
オンライン会議システム ZOOM を併用での開催

3 出席状況

出席理事 30 名

出席監事 2 名

出席オブザーバー 12 名

・ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

理事

馬場益弘、中澤信夫、富田三和子、中村隆夫、安藤淳、大村雅一、宮野幹弘、永井真美、
大垣俊朗 以上 9 名

・ オンライン参加（自宅）

理事

望月宣武、尾形依子、鈴木祥子、萩原ゆき、中村和哉、舩澤泰隆、長塚奉司、高橋祐司、
中島量敏、目瀬好男、加賀谷賢二、磯部君江、斉藤修、五十川浩司、石川彰、井上貴支、
岩瀬喜貞、安田大助、沼田浩行、関一人、高間信行 以上 21 名

監事

紙谷雅子、鈴木保夫 以上 2 名

オブザーバー

浅田総務委員長、松田財政委員長、平松事業開発委員長、長田レディース委員長、
増田ルール委員長、堀川国際委員長、坂口普及指導委員長、黒川国体委員長、
宮本オリンピック強化委員長、上阪外洋安全委員、中山キールボート強化副委員長、齋藤参与
以上 12 名

議事の経過及び結果

対面開催と ZOOM 併用でのハイブリット方式で開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに出来る仕組みになっていることを参加者各位に確認し、議案の審議を下記のとおり開催した。

（定足数の確認）

理事 30 名中、出席者 30 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、馬場益弘会長が議長となり、2023 年度通常（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を安藤淳専務理事に委任した。

(議事録署名人)

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、斉藤修、沼田浩行の両理事が任命された。

【審議事項】

1. 理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂（ジェンダー平等）について

安藤専務理事から、理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂（ジェンダー平等）について概要の説明があった。

望月常務理事から、資料に基づき、理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂（ジェンダー平等）について詳細な説明があった。

大垣理事から、スポーツがバンスコード原則2（3）において、理事の任期について10年理事をやった場合は2期4年開けるのは理解しているが、10年に満たない場合は何期開けなければならないなどルールはあるのかと質問があった。

望月常務理事から、ガバナンスコード上8年理事を行い、1期2年開けて再度理事になっても、リセットされない。インターバルは必ず2期4年開けなければリセットされないことになっていると回答があった。

大垣理事から、通算10年の理事を退任後と限定しているが、そうではないのであれば、但し書きの部分の訂正が必要ではないかと質問があった。

望月常務理事から、大垣理事からの指摘事例を想定すると、修正が必要であるとの発言があった。

中村理事から、任期10年と言うのは水域理事、選挙理事などに関わらず任期10年と言う認識で間違いないかと質問があった。

望月常務理事から、すべての理事選出において任期10年は適応されると回答があった。

満場一致で承認された。

2. 2024 - 2025 理事推薦候補者の推薦手続についてについて

浅田総務委員長から、資料に基づき、2024～2025 理事推薦候補者の推薦手続について説明があった。

満場一致承認された。

3. 役員候補推薦管理委員会の設置について

浅田総務委員長から、資料に基づき、役員候補推薦管理委員会の設置について説明があった。

満場一致承認された。

4. 2024-2027 年度評議員選任手続き/ 評議員選定委員会の委員変更について

浅田総務委員長から、資料に基づき、初めに 2024-2027 年度評議員選任手続きについて説明があった。

長塚理事から、評議員の枠について以前の説明では、北海道水域と東北水域併せて 4 枠と聞いていたが、今回の説明では従前と同じで、北海道枠が 2 枠、東北枠が 2 枠という認識でいるが間違いないかと質問があった。

安藤専務理事から、その認識で間違いないと回答があった。

満場一致で承認された。

浅田総務委員長から、資料に基づき、評議員選定委員会の委員変更について説明があった。
元山澄雄委員から山本隆委員へ変更したとの説明があった。

満場一致で承認された。

5. 2023 年度 JSAF 定期表彰ならびに JSAF Club Class of the Year 2023 ノミネート&受賞について

浅田総務委員長から、資料に基づき、2023 年度 JSAF 定期表彰について、説明があった。

満場一致で承認された。

船澤理事から、JSAF Club Class of the Year 2023 ノミネート&受賞について説明があった。

満場一致で承認された。

6. コンプライアンス規程改訂について

浅田総務委員長から、資料に基づき、コンプライアンス規程改訂について説明があった。

満場一致で承認された。

7. パラセーリング委員会強化規程、ユニフォーム規程、スタッフ(含むコーチ)規程について

高間パラセーリング委員長から、資料に基づき、パラセーリング委員会強化規程、ユニフォーム規程、スタッフ(含むコーチ)規程について説明があった。

満場一致で承認された。

8. 国体委員会名称変更について

黒川国体委員長から、資料に基づき、国体委員会名称変更について説明があった。

国民体育大会から国民スポーツ大会へ名称変更に伴い、国体委員会から国民スポーツ大会委員会へ変更すると説明があった。

満場一致で承認された。

9. 支援寄付金（秋田県本庄高校）について

浅田総務委員長から、資料に基づき、支援寄付金（秋田県本庄高校）について説明があった。

満場一致で承認された。

10. 医事科学委員長の交代について

安藤専務から、資料に基づき、医事科学委員長の交代について説明があった。

高橋正哲委員長から栗原茂勝委員長代行に変更との説明があった。

満場一致で承認された。

11. 強化選手の認定条件(2024 年以降)についての変更について

宮本オリンピック強化委員長から、資料に基づき、強化選手の認定条件(2024 年以降)についての変更について説明があった。

宮野理事から、強化選手の認定条件見直しの嘆願書について、オリ強委員会の見解をお聞かせいただきたいとの質問があった。

馬場会長から、クラス協会からの嘆願書は拝読した、宮本オリンピック強化委員長と協議した。結果については後程、報告させていただくと回答があった。

満場一致で承認された。

宮本オリンピック強化委員長から、馬場会長宛に日本ウィンドサーフィン協会、日本レーザークラス協会、日本 49er 協会の 3 協会からオリンピック強化委員会 Web サイトに掲載されている、公示の「各艇種別世界選手権で参加艇数の 50%以内であることが五輪代表選手の要件」の撤廃について嘆願書が届いた。国枠の掛かっている大会前に、開催される各クラス別世界選手権で参加艇数の 50%以内に日本選手が入れなかった場合、そのクラスの選手たちは活動終了になってしまう。仮に、最後の国

枠が掛かっている大会で日本が国枠を獲得したとしてもパリ五輪に選手が出られないと言う事態が発生してしまうため撤廃して欲しいと言う内容だった。馬場会長と何度も協議した結果、規定の撤廃を行うことになったと説明があった。

大垣理事から、強化の観点、五輪でメダルを取るために定めた世界選手権 50%以内を目指してきた。オリ強の取り組みの撤廃を簡単にしてよいのか難しいと思う。嘆願書にも記載があるが、選手を応援してくれる企業、スポンサー今後の普及発展に寄与する内容であると書いてある。強化選手に求める内容がメダルを取ることであれば世界選手権で 50%以内と言う成績は正しいと思うが、それ以外の期待がされていると思う。その辺りも評価してあげるべきではないかと意見があった。

宮本オリンピック強化委員長から、色々な論点があると思うが、JOC の評価は、どれだけメダルを取ったか、どのくらい活動しているかなどが評価される。その活動に JOC がどのような判断をしているかが一つ論点になると思う。また、オリンピック強化委員会の業務について、今一度考える必要はあると思う。現状、オリ強は少数で活動しているため、メダルを取るために活動しており、普及の部分に関しては、誰がどこまでやるのかは、しっかり定義付けをしなければならない。現時点でオリンピック強化委員会として、すぐに受けることは出来ないと回答があった。

望月常務理事から、オリ強は、JOC、JSC から多大な強化支援をもらっている。NF は、メダルの個数によってランク付けされており、東京五輪後、日本セーリング連盟のランクは、S ランクから A ランクに降格していたが、先日 S ランクに再昇格した。普及については JSAF として考えなければならないが、オリ強は選手強化に特化すべきだと思う。

現状は 470 だけしか国枠が取れていない。470 選手 2 名とスタッフ 1 名しか競技会場に入ることが出来ない。今回、五輪でメダルを取るために何が最適かを考えた場合、世界選手権で 50%以内の撤廃する代わりに、他の艇種で国枠を取れた場合のスタッフ枠を 470 に優先してもらった方が良いと思う。今回久しぶりにメダルが取れる可能性が高いので、NF としては可能性の一番高い艇種である 470 に最大のリソースを割くべきだと思うと発言があった。

宮野理事から、オリ強、クラス協会の両方の気持ちは理解しているつもりである。個人的には世界選手権で 50%以内に入っていなければ、ラストチャンスレガッタでも国枠を取ることは難しいのではないと思う。そこに関しては、選手たちも理解し、それに向かって頑張っていると思う。仮に世界選手権で 50%以内入れなかった場合、ラストチャンスレガッタは、補助などなくても良いので、選手たちには出場してもらい、国枠が取れたら五輪に出させてあげたいと言うのが各クラス協会の意見だと思うと発言があった。

船澤理事から、今後、オリンピッククラスの団体とチームを組み普及、発展を念頭に置き、五輪頼みでない普及、発展に取り組んでいきたいと思うと発言があった。

馬場会長から、パリオリンピックに限り、国枠獲得したクラスの出場ならびに各クラスワールドに

において総合順位が参加艇数の50%以上であった場合においてもラストチャンスレガッタへ挑戦できることにしたので、ご理解いただきたいとの発言があった。

保留1名、賛成29名で承認された。

【協議事項】

1. JSAF 契約規程、決裁規程運用基準明確化について

安藤専務から、資料に基づき、JSAF 契約規程、決裁規定運用基準明確化について概要の説明があった。

松田財政委員長から、資料に基づき、決裁規程運用基準明確化について説明があった。

大垣理事から、9 ページ目に記載されている、軽易な事案 500 万円未満にするところで、会長欄に○が付いているが 500 万円未満にするのかしないのかわからないので、確認したいと発言があった。

安藤専務から、会長欄を 500 万円以上に修正すると発言があった。

次回理事会で審議事項にすることとなった。

2. 2024 年度事業方針（案）について

安藤専務理事から、資料に基づき、2024 年度事業方針（案）について説明があった。

松田財政委員長から、資料に基づき、2024 年度事業方針（案）について補足説明があった。

次回理事会で審議事項にすることとなった。

3. 運営規則の改訂（加盟団体規程新設）について

安藤専務理事から、運営規則の改訂（加盟団体規程新設）について、今回も前回に引き続き継続協議にさせてもらうと説明があった。

4. 特別加盟団体申請（NPO 油壺湾特別泊地協会）について

浅田総務委員長から、資料に基づき、特別加盟団体申請（NPO 油壺湾特別泊地協会）について説明があった。

次回理事会で審議事項にすることとなった。

5. JSAF 規程改定について

増田ルール委員長から、資料に基づき、JSAF 規程改定について説明があった。

次回理事会で審議事項にすることとなった。

6. 国体セーリング競技役員編成基準の改正について

黒川国スポ委員長から、資料に基づき、国体セーリング競技役員編成基準の改正について説明があった。

次回理事会で審議事項にすることとなった。

【報告事項】

(1) 業務執行理事報告（経営企画室報告、SS艇種課題進捗状況、海プロ2024、ヨットクラブ巡りなど）

望月常務理事から、組織基盤強化支援事業について資料に基づき、報告があった。

安藤専務理事から、SS級課題進捗状況について資料に基づき、報告があった。

船澤理事から、海と日本PRJについて資料に基づき、報告があった。

石川理事から、全国ヨットクラブ、ハーバーグループ巡り（東北）について資料に基づき、報告があった。

安藤専務理事から、ふね遺産について資料に基づき、報告があった。

(2) 愛知名古屋アジア大会セーリング競技実行計画進捗状況/大会種目公募について

安藤専務理事から、第20回アジア競技大会について資料に基づき、報告があった。

(3) 総務委員会報告（2023年度コンプライアンス研修実施）

浅田総務委員長から、2023年度コンプライアンス研修実施について資料に基づき、報告があった。

(4) オリンピック強化委員会報告

宮本オリンピック強化委員長から、オリンピック強化委員会報告について資料に基づき、報告があった。

(5) 国スポ委員会報告（佐賀リハーサル、鹿児島国体報告）

黒川国スポ委員長から、資料に基づき、佐賀国スポリハーサル大会、鹿児島国体について報告があった。

(6) 国際大会等準備委員会報告（ENEOS事業進捗状況）

船澤理事会から、資料に基づき、ENEOS事業進捗状況について報告があった。

(7) 国際委員会報告 (WS・ASAF・ORC 総会報告)

望月国際委員から、WS、ASAF、ORC 総会について報告があった。

(8) レースマネジメント委員会報告 (公認申請等進捗状況一覧他)

高橋レースマネジメント委員から、資料に基づき公認申請等進捗状況一覧などについて報告があった。

(9) ルール委員会報告

増田ルール委員長から、上告否認の承認について資料に基づき報告があった。

(10) ODC 計測委員会報告

中村 ODC 計測委員長から、ODC 計測委員会報告について資料に基づき説明があった。

(11) 普及指導委員会活動状況報告

坂口普及指導委員長から、公認指導者養成講習会、国スポのコーチ資格、海と日本プロジェクトについて報告があった。

(12) 環境委員会報告

大垣理事から、環境委員会報告、経営企画室 See Sports セーリング競技リアルタイム配信事業について資料に基づき報告があった。

(13) e-Sailing 委員会報告

尾形 e-Sailing 委員長から、e-Sailing 委員会報告について資料に基づき報告があった。
イタリアで開催された e-Sailing 世界選手権で田窪選手が 4 位になったと報告があった。

(14) レディース委員会報告

長田レディース委員長から、チャイルドルーム、ワールドセーリングレースマネジメントクリニック、JSAF レディース委員会主催第 6 回情報交換会などについて報告があった。

(15) キールボート強化委員会報告

中山キールボート強化副委員長から、NYYC インビテーションナルカップ、グローバルチームレース レガッタ、SSL スターセーラーズリーグ・ゴールドカップ、大学対抗&U25 マッチレースについて報告があった。

(16) 外洋常任委員会報告

中村和哉理事から、外洋ダブルス日本選手権 2024 について報告があった。

(17) 2024JSAF カレンダー販売について

平松事業開発委員長から、2024年のJSAFカレンダーについて報告があった。

(18) 2024 年度事業計画・予算提出依頼

松田財政委員長から、資料に基づき、2024 年度事業予算（案）・予算提出依頼について報告があった。

(19) 2024 年新年会&ENEOS表彰/パリオリンピック壮行会

富田副会長から、資料に基づき、新年会、JSAF 定期表彰式について報告があった。

(20) 2024 年行事予定（案）

(21) 2023 年度メンバー登録数（11 月 30 日現在）

(22) 2023 年度通常第 2 回理事会議事録

(23) その他

事務局職員紹介（松澤憲秀）

ボートショー2023 JSAF ブース企画（案）

2024 年度 1 月 27 日全国代表者会議について

JSAF事務局年末年始のお知らせ

上記の項目について、寺澤事務局長からまとめて報告があった。

以上をもって、オンライン会議システムZOOMを使用し終始異常なく、議事全てを終了したので、議長は16時00分に閉会を宣した。

2023 年度通常（第 3 回）理事会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2023 年 12 月 2 日

議 長 会 長 馬 場 益 弘

議事録署名人 理 事 斉 藤 修

議事録署名人 理 事 沼 田 浩 行

副 会 長 中 澤 信 夫

副 会 長 富 田 三 和 子

副 会 長 中 村 隆 夫

専務理事 安 藤 淳

常務理事 大 村 雅 一

常務理事 望 月 宣 武

監 事 上 野 保

監 事 紙 谷 雅 子

監 事 鈴 木 保 夫